
Readers Theatre 大学英語授業の実際

浅野 享三

はじめに

パフォーマンスと分類される内容の大学英語授業は各種あるが、本稿はその1つに分類できる Readers Theatre (以後 RT) を紹介する。筆者が授業で実施している順序に従い、RT 導入方法について詳述する。

RT は様々に定義されているが (Adams, 2003; Flynn, 2004; Sloyer, 2003), 本稿での定義は「書かれた英文を理解・解釈し、書き手が込めたメッセージを読み取り、書き手に代わり音声で聴き手に伝えるための、必ずしも暗記暗唱を伴わない複数の読み手による音読」とする。

さらに、RT のイメージを持ちやすいように、一般的な劇と比較した RT の特徴を以下の5つに整理する。

- (1) 読み手は手に持つ、または譜面台に置いた台本を隠すことなく音読する。
- (2) RT の発表は2名以上のグループで行う。伝えるべき内容に応じてその場で小さな動きやジェスチャーを利用する。
- (3) RT の読み手は、読み手同士が壇上で顔と顔を合わせることはしない。
- (4) 原則として、大道具・小道具、衣装、照明、効果音は用いない。
- (5) 読む作品は書かれたものであれば何でもよい。童話、詩、小説、新聞記事、聖書、カタログや食堂のメニューなど、適正に台本化すれば利用できる。

以上のように、RTは大学英語授業内の制約を考慮した場合、一般的な劇の指導に比較して、発表する学生は受け入れやすく、また指導者は演劇指導経験がなくとも指導のしやすさがある。

Step 1 : Grouping 学生を学習単位であるグループに分ける

方法:学生を学習単位である数名ごとのグループに分ける。何名で1グループとするかは、①担当クラスのサイズと、②読解させる英文内容の両面から勘案する。一般的な1回の授業が90分の場合について説明する。音読に要する時間が5分程度の英文なら、1グループ6名として、最大で60名程度のクラス規模まで対応できる。その根拠は、発表の授業時に、学生自身による振り返りと指導者の評価のための時間を見積もっても、10グループは十分に授業時間内に終わらせるからである。クラス規模と読ませる英文にかかる時間を考慮することで、規模の大小に関わらず導入できる。

しかし、読解させたい英文内容によっては、特定の人数による読み手用の台本にしかできない場合がある。例えば、授業運営上の都合から5名で1グループにしたいとしても、音読発表時には、5名の読み手では英文読解上の不自然さや不合理が生じてしまうことがある。対応策としては、詳細はStep 4に譲るが、ある読み手の台詞を音読の前・後半で分けてしまい、本来は1人で読む部分を2人に増やして調整する方法がある。また、逆に読み手の数を減じて調整するのであれば、2人分の台詞を学生に「1人2役」させる方法もある。どちらにせよ、発表時に音読英文が不自然にならないような配慮をしながら、実際の授業運営に対応する方策を用意することが非常に現実的な手段である。

備考:これまでの筆者の実践から、1学期間に読む英文の内容に応じて1グループを4～8名程度と変化させるのがよい。毎回同じ人数・人の編成で

はなく、作品ごとにメンバーを増減させ、入れ替えることで人間関係を固定させず、学生の学び方や学ぶ内容に変化が期待できる。あるいは、クラスの実態に応じて学力差を勘案し、できるだけ均等な集団を形成させる方法もあるが、特に学期開始当初は導入しにくい。ここで協同学習の利点を考慮すれば、上位学生は下位学生の「足場」になる経験を積ませることも可能である。筆者はしばしば着座している学生に番号を言わせて、同じ番号の者同士でグループを作らせる。決まったら、3分程度時間を取り、自由に自己紹介を兼ねた話をさせて、仲間意識を醸成する準備としている。

Step 2 : Circle-reading グループで読解英文を1文ごとに音読する

方法:学生が予習なしに授業で初めて英文を読むことを想定し、まず各グループで読解する英文を1文ごとに音読することから始める。学生は1人ずつ長短に関わらず1文を音読し、それを最後までリレーさせる。自分の読む箇所が予め分からないので、他者の音読をよく聞かなければならない。読み進める際に意味が分からない語や発音を知らない語があっても、辞書は引かずにその語に印だけをさせて、諦めずに最後まで音読させる。グループ内で意味や発音を知る学生がいれば、積極的に教えさせる。時間配分をしておき、少なくとも2回はこの作業をさせる。2回目以降はグループ内で読む順序を変え、1回目と異なる文を音読することで、学生自ら発音などのチェックをさせる。この段階からは発音の分からない語があれば挙手させて、教師は巡視しながら指導する。発表準備の最初の段階としての発音チェックが目的だが、音読しながら単語や文の意味を尋ねたくなる学生も少なくない。その場合はヒントを与える程度の指導をして、音読に集中させる。また、fluencyを高めるために、2回目は音読にかかる時間を短縮できるように指示することもある。学生の実態に応じて判断するとよい。

備考:「文」の意味が不確かな学生がいる。高校までの「国語」で習った「文」と「文章」の違いが明らかではない学生もいることから、筆者はこの授業の導入時には毎回、「センテンス」と「パラグラフ」について説明する。学生は、1文ごとの音読が求められるので、この説明はこれらの構造を明確に理解できるという利点がある。この過程では、学習する仲間として他の学生と協同を实践させる意図から、発音や意味が分からなければ誰でも尋ね、サポートし合う学習を強く推奨する。

Step 3 : Interpretation 読解英文の意味内容を理解する

方法：音読は、語彙や文法事項の定着だけがその目的ではなく、読解を論理的に進めるための手段でもある。この過程では冒頭に、これが何についての話か、登場人物は誰か、また話のplotについて、本文理解を促進させるようなヒントを与える。クラスの実態に応じて、より詳述する時もあるが、反対に登場人物の紹介にとどめる場合もある。教師の介入は、あくまでも学生自身による読解をサポートするのが目的である。この過程の進め方の基本はグループごとに話し合う形式を取ることである。辞書を利用したり、話し合ったり、他のグループに聞いたりすることは妨げない。暗礁に乗り上げたような場合は、最終的に教師に頼ることも歓迎する。

読解に際しては、和訳文作成が目的ではなく、その次の過程に出てくる音読がよりしやすくなるように、内容理解を目的とする。よって、教師から全文訳を渡すことはしない。その代り、理解できたかどうかをチェックする手立てとして、読解内容の「イメージ化（見える化）」を強く求める。イメージ化とは、学生が読解した内容が1枚の画像のように、時には一連の映像のように脳裏に浮かぶように、教師が様々な発問をすることである。換言すると、学生が読解英文の意味内容を理解し、以後に続く3つの過程を経て、読解した内容を音声表現で聴衆に伝えられるようにするためである。学生の

音読により、聴衆がメッセージを視覚化・映像化できるようにする（浅野, 2013a; McLaughlin, 2012; Park, 2012）。

発表時の音読の助けとなるように、いわゆる *journalistic questions* 「5W1H」を手掛かりに、登場人物が「いつ」「どこで」「何を」「なぜ」しているかを考えさせる。読解文にこれらが明示的に述べられている場合もあるが、不明な場合も頻出するので、その時は話し合いにより想像させる。グループ全員 of 想像が一致しない時もあるが、根拠とした語や句、そして文や段落を必ず指摘させる。また、その際に学生の注意を各種代名詞に向けさせることも有効であると考えられる。同時に、英文を理解させるために文法的な知識を活用させる。文法知識は入学試験の「文法問題」のためではなく、英文を論理的に考え、音読するために役立つことを知らせることができる。

備考: 学生間には学力差に加えて勤勉かどうかの差がある。だからと言って、怠慢な学生に「怠惰である」という意味のことを授業時に直接的に指摘することない。何故ならば、その学生はすでに他者から十分な *peer pressure* を受けていると考えるからである。逆に、勤勉な学生や学力の比較的高い学生にとっては、そうではない学生の援助をすることが何かしらの自己肯定感や満足感を得る機会につながることを知らせている。

Step 4 : Scripting 台本化する

方法: グループで音読できるように台本化するという意味は、読み手の数に合わせて原文をナレーター（語り手）とキャラクター（登場人物）の台詞に仕分けることである。読解英文をそのまま使用するので、原文には一切手を加えずに使用する。原文の著作権を保護するという意味もあるが、この方法だと再三にわたり原文を読解することになり、より深い読解を促進することにもつながる。

具体的な台本化の方法を、例を挙げて説明する。以下は、授業で使用した The Gift of the Magi の冒頭段落である。

Della counted her money three times. She had only one dollar and eighty-seven cents. That was all. And tomorrow would be Christmas. What Christmas gift would she buy with only one dollar and eighty-seven cents? Della lay down on the old couch and cried and cried.

このストーリーは脚本ではないので、このまま最後まで読んでも、ほとんどがナレーター部分となり、キャラクター部分は極少数回の出現となる。グループで音読するのには、読み手の登場回数にあまりに不均衡であり、発表時の面白みに欠ける。音読を通した大学英語授業として教育的配慮が必要である。

そこで次のように、原文を仕分けする。Della のナレーターは Reader 1, Della は Reader 2, ストーリーのナレーターは Reader 3 の 3 人の読み手に分ける。

Reader 1: Della counted her money

Reader 2: three times.

Reader 1: She had only

Reader 2: one dollar and eighty-seven cents.

Reader 1: That was all.

Reader 3: And tomorrow would be Christmas.

Reader 1: What Christmas gift would she buy

Reader 2: with only one dollar and eighty-seven cents?

Reader 1: Della lay down on the old couch

Reader 2: and cried and cried.

この場合 Della というキャラクターは、自身を台詞上で she と呼称できない。

不自然にならないように配慮して, Della (Reader 2) と彼女だけのナレーターである Reader 1 とに仕分けた。さらに話の後段を考慮し, もう 1 人, Della 自身ではなく, ストーリー展開を伝える役目の Reader 3 を置いた。これで台詞回数の不均衡はほぼ解消した。最終的な学生の発表を想定すると, グループ全員が同程度の分量を読むことが好ましいと考えられる。できるだけそれに近づくような仕分けになるように工夫をする。工夫の具体的な方法は, ナレーターの台詞からキャラクターの台詞に回せるものは回すことである。

この方針で, 次の第 2 段落も台本化する。

Let's leave Della alone for a while and look at her home. The chairs and tables in the apartment were old and poor. Outside there was a mailbox without mail, and a door without a doorbell. The name on the door said Mr. James Dillingham Young—
Della's dear husband Jim.

Jim のナレーションは Reader 4 が, Jim は Reader 5 が担当するとして, 台本に仕分けたものが以下である。

Reader 1: Let's leave Della alone for a while and look at her home.

Reader 3: The chairs and tables in the apartment were old and poor. Outside there was
a mailbox without mail, and a door without a doorbell.

Reader 4: The name on the door said Mr.

Reader 5: James Dillingham Young

Reader 4: —Della's dear husband Jim.

こうすると, 2つのパラグラフで, 合計 5 名の読み手を登場させられる。この実践では, 学生が音読のために台本用の英文を新たに書き下ろすことはない。よって, 必ずしも高度の英語作文力や翻訳力を必要としない。またこの実践の利点として, 読解させたい原文をグループ分けしたい人数に応じて

仕分けることが可能である。予め脚本化されたものは、場合により非常に便利だが、こちらの教室事情に応じた読み手の数になっているとは限らないのが難点である。また、読ませたい英文が脚本化されていることはほとんどないことから、自身であるいは学生とともに台本化するほうが、極めて授業運営が行いやすいと言える。なお、参考までに、この方式で台本化した授業用RT スクリプトを付録に記す。

Step 5 : Staging/Casting 発表用の演出を考えて配役をする

方法：読み聞かせる相手は目の前の聴衆である。できるだけ効果的に読み聞かせるために、聞かせる内容に応じて必要な表情やジェスチャー、またちょっとした体の動きを利用する。大道具も小道具も効果音もなく、必要であればそれらを視線や表情やジェスチャー、または肉声で表現する。衣装は特になく日常の着衣でよい。聴衆の想像力に訴えること (Holland, 2010) が肝要なため、読み手は上下共に黒の服装で発表することもある。学生への指導として、読解した英文内容を聴衆が理解しやすく伝えるために、これらの工夫があることを理解させる。聴衆はこれらの工夫と併せて、音声表現から英文内容をイメージし、頭の中で視覚化して理解する。伝えるべき情報は音読という音声表現によってのみ聴衆に届くものではなく、むしろその大半は視覚に訴えることで理解がなされるとの考えから、学生には、このことの重要性を繰り返し説く。積極的に非言語によるコミュニケーションという手段を利用させる。

備考：学生によってジェスチャーを交えることを恥ずかしがる場合や、内容により文化的な制約が認められる場合がある。その場合は、コミュニケーションには非言語表現があることがより自然であること、また日本語の場合と比較して英語の非言語表現はいかに異なるのかを理解させるとよい。学生が聴

衆になる経験をすると、音声のみに頼る表現は理解するのが困難なことがよく分かる。

グループで配役を決める際には、メンバーの持つ雰囲気や個性、英語を音読する力や本人の希望などを十分に考慮するとよい。配役次第でグループのそれまでの努力に差がつくことも珍しくはない。読解した英文の内容にふさわしく最も効果的な配役をグループで検討することも課題のうちである。筆者のこれまでの経験では、多くの学生は「公平だから」という理由で「じゃんけん」で配役を決めてしまう。しかし、よりグループの特性を生かした配役ができれば、またもし協同・協調がうまくなされれば、音読の成果はより強い達成感となって現れることを学ばせる機会となる。

Step 6 : Run-through 練習とリハーサル

方法:授業中に少なくとも1度は学生の練習を直接指導する。指導の要点は、英語の音声表現面の指導と解釈した内容が正しいかどうかである。この音読は外国語学習の一環であり、音読させる原文には必ずしも録音・録画した教材があるわけではない。よって、特に個々の語の発音と文強勢やリズム、抑揚を点検する。中学時代から、発音、リズム、抑揚の知識を実際に音読に生かすような指導をほとんど学生は経験していない(上田・大塚, 2010)ことから、カタカナ読みの不自然さにすら気づけない学生がいる。音声指導は、実際の文脈の中でどのように音声表現されるかという視点が必要である。

また、学生らによって演出されたものを点検して回ると、学生の解釈間違いに気づかされることがしばしばある。学生たちは表面的な解釈に終わることが多いので、ジェスチャーや動きをさせてみることで理解不足であることを指摘できる。つまり、この過程は発表のための練習ではあるが、読解した内容を点検する過程でもある。これは読解と音読が表裏一体であることの証左である。英文和訳をただだけでは見逃す詳細を、動きを交えて点検するこ

とで、さらに深い理解を促すことができる。もっとも頭で理解ができていても、ジェスチャーなどを伴う音読はできないという学生もいるが、これは授業の回を追うごとに徐々に解消される。最後に、可能な限り本番同様なリハーサルを授業中に組み込むことで、同じ英文を読解した他のグループから別の解釈や音声表現を学ぶ機会を学生らに提供できる。

備考：全てのことを授業内で終わらせるような配慮をして授業計画を組み立てるものの、やはり学生の授業外の練習に任せなければならない部分がある。グループによる発表なので、練習のためには全員集合が求められる。この過程の頃までにはいくらかの連帯感が芽生えるようで、空き時間や授業後の予定をやりくりしている学生を目にする。全員は集まらない場合はどうすればよいのか、少ない時間で効率よく練習するには何から始めればよいのかなど、問題発見と問題解決の実践的練習機会ともなっているようである。これを乗り越えたグループは、単位認定に必要な成績評価とは別の、チームスピリットが大いに高まる経験をしている (Kagan & Kagan, 2009)。

Step 7 : Performance/Evaluation 発表と評価

方法：全 15 回のうちの 4～5 回目ごとに、「発表」というパフォーマンスによる試験をする。評価は、次のような項目に分けて実施し、発表終了後にその場で手渡す。

評価基準と評価 (例)

(1 回の発表を 25 点とした場合)

1. Pronunciation (個人) 個々の語の発音は正確かどうか。

7---6---5---4---3---2---1

2. Rhythm (個人) 文強勢が英語らしいリズムかどうか。
3---2---1
 3. Gesture, Animation (個人) メッセージを効果的に伝えるのに役立っているかどうか。
3---2---1
 4. Eye contact (個人) 聴衆をきちんと見て話したか。効果のあるアイコンタクトかどうか。
3---2---1
 5. Oral interpretation (グループ共通) 原文を解釈し、ふさわしい音声に変えて表現しているかどうか。
3---2---1
 6. Scripting (グループ共通) 原文を十分に理解したうえで、台本化したかどうか。
4---3---2---1
 7. Cooperation (グループ共通) 協力を惜しまない発表だったかどうか。
2---1
- Total 25

この評価基準は学生に予め評価項目と基準を知らせて努力する目標を明確にさせるねらいがある。ただし、発表により各項目の基準を随時変更して、教育目標と連動させている。例えば、授業回数はまだ浅い時点では、pronunciation や rhythm 項目の配点を高くして、oral interpretation 項目は低くしている。

また、学生には他グループの音読発表をきちんと見るように指導する。同じ英文を他者が音読する様子を聴衆として楽しみながら、自分たちと異なる解釈やジェスチャーなどがあることを学ぶ機会とさせている。同時に読み手の伝えるメッセージを同じ英文を理解した聴衆として、英語のまま理解して

もらいたいからである。

評価者である筆者は、ビデオ録画用のカメラとともに教室後部に着席する。録画は、評価用ではなく次の読解音読授業に資するためである。学生の中には初めて自分が英語を口にする姿を見たという者もあり、新たな学びにつながると考えられる。全発表終了後に全体的なコメントをする。学生もまた、他グループの感想を言う。最後の時間を使って、自分の取り組みに対する「振り返り」を書いて提出させる。後々の研究用に、メールによる提出をさせて、データとして収集しテキストデータ分析にも使用する（浅野，2013b）。

備考：この発表は試験なので、休む学生はまずいない。しかし、就活などでやむを得ないこともあり、欠席者のために試験ができなくなることへの配慮が必要である。例えば、自分以外の部分も練習する指示をして、予め2役まではありうることを意識させる。場合により、他グループから欠席者と同じ役の読み手をレンタルすることも認めている。

また評価は、個人評価が7～9割程度、グループ共通評価は残りの3～1割程度としている。個人の努力がその時のグループ編成により反映しにくいという学生の不公平感を減らす努力である。

まとめ

RT 授業実践がどのような大学英語授業に結びつくと考えられるかについて示す。

1. 大学入学までに十分に学べなかった学習領域に焦点を当てた授業。
2. 偏差値や点数とは別の尺度で学習成果を現わし得ることを学ぶ授業。
3. 個人学習に加えて、複数人で補い合う学習方法が経験できる授業。
4. 協同的に学び、互いに貢献して諸課題を解決する方法を体験する授業。

5. 教科「英語」ではなく、言語「英語」と実感する授業。
6. 音声と意味は不可分なことを知る授業。
7. 非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる授業。

参考文献

- Adams, W. (2003). *Institute book of readers theatre: A practical guide for school, theater, & community*. Chapel Hill, NC: Professional Press.
- 浅野享三 (2013a) 「読解テキストを視覚化させる発問の試み」『南山大学アカデミア文学・語学編』第94号 63-102頁.
- 浅野享三 (2013b) 「計量テキスト分析から考察する内容理解を促進する音読指導」『中部地区英語教育学会紀要』第42号 61-68頁.
- Draper, C. G. (2006). *All American Stories*. White Plains, NY: Pearson Education, Inc.
- Flynn, R. M. (2004). Curriculum-based readers theatre: Setting the stage for reading and retention. *The Reading Teacher* 58, 4, 360-365.
- Holland, M. (2010). Reading aloud investigated through factor analysis and brain science with a view to oral English education for Japanese. *Studies in Language Education*, 9, 63-86.
- Kagan, S., & Kagan, M. (2009). *Kagan cooperative learning*. San Clemente, CA: Kagan Publishing.
- McLaughlin, M. (2012). Reading comprehension: What every teacher needs to know, *The Reading Teacher*, 65, 7, 432-440.
- Park, J. Y. (2012). A different kind of reading instruction: Using visualizing to bridge reading comprehension and critical literacy. *Journal of Adolescent & Adult Literacy*, 55, 7, 629-640.
- Sloyer, S. (2003). *From the page to the stage, the educator's complete guide to readers theatre*. Westport, CT: Teacher Ideas Press.
- 上田洋子・大塚朝美 (2010) 「発音と音声のしぐみに焦点をあてた中学校英語教科書分析—インプットの基礎を考察する—」『大阪女学院大学紀要』第7号 15-32頁.

付記

本研究は「2013年度南山大学パッへ研究奨励金 I-A-2」による成果の一

部である。また本稿は、2013年9月1日大学英語教育学会全国大会ワークショップで使用したものを加除・修正した。

付録

The Gift of the Magi

Adapted from the story by O. Henry

Readers Theatre script by Asano Keizo

Reader 1: Narrator for Della

Reader 2: Della

Reader 3: Narrator for Jim

Reader 4: Jim

Reader 5: Mme. Sophronie, and narrator for all of the others

R1: Della counted her money

R2: three times.

R1: She had only

R2: one dollar and eighty-seven cents.

R5: That was all. And tomorrow would be Christmas.

R1: What Christmas gift would she buy

R2: with only one dollar and eighty-seven cents?

R1: Della lay down on the old couch and cried and cried. Let's leave Della alone for a while and look at her home.

R5: The chairs and tables in the apartment were old and poor. Outside there was a mailbox without mail, and a door without a doorbell. The name on the door said Mr.

R4: James Dillingham Young

R3: —Della's dear husband

R4: Jim.

R1: Della knew that Jim would be home soon. She dried her eyes and stood up. She looked in the mirror. She began to comb her hair for Jim. She felt

R2: very sad.

R1: She wanted to buy Jim a Christmas present—

R2: something good.

R1: But what could she do with one dollar and eighty-seven cents. She combed her hair in front of the mirror and thought. Suddenly she had an idea.

R3: Now, Jim

R1: and Della

R3 & R1: had only two treasures.

R3: One was Jim's gold watch.

R1: The other was Della's hair. It was long and brown, and fell down her back. Della

R2: looked in the mirror a little longer.

R1: Her eyes were sad, but then she smiled. She put on her old brown coat and her hat. She

R2: ran out of the apartment house and down the street.

R1: She stopped in front of a door which said,

R5: MME. SOPHRONIE. HAIR OF ALL KINDS. Madame Sophronie was fat and seemed too white. The store was dark.

R2: "Will you buy my hair?"

R5: "I buy hair," said Madame. "Take off your hat. Let's see your hair."

R1: Della took off her hat. Her hair fell down like water.

R5: Mme. Sophronie lifted Della's hair with a heavy hand. "Twenty dollars", she said.

R2: "Give me the money now!"

R1: said Della.

R5: Ah! the next two hours flew past like summer wind.

R1: Della shopped in many stores for the right gift for Jim. Then she found it—

R2: a chain for his gold watch.

R5: It was a good chain, strong and expensive.

R1: Della knew the chain would make Jim happy.

R3: Jim had a cheap chain for his watch, but this chain was much better.

R2: It would look good with the gold watch.

R5: The chain cost twenty-one dollars.

R1: Della paid for the chain and ran home with eighty-seven cents. At seven o'clock

Della made coffee and started to cook dinner.

R3: Jim would be home soon. He was never late.

R1: Della heard Jim outside. She looked in the mirror again.

R2: Oh! I hope Jim doesn't kill me!

R1: Della smiled, but her eyes were wet.

R2: But what could I do with only one dollar and eighty-seven cents?

R5: The door opened,

R3: and Jim came in and shut it. His face was thin and quiet. His coat was old, and he had no hat. He was only

R4: twenty-two.

R3: Jim stood still and looked at Della. He didn't speak. His eyes were

R4: strange.

R1: Della suddenly felt afraid. She did not understand him. He began to talk very fast.

R2: Oh, Jim, dear, why do you look so strange? Don't look at me like that. I cut my hair and sold it. I wanted to buy you a Christmas gift. It will grow again—don't be angry. My hair grows very fast. Say 'Merry Christmas,' dear, and let's be happy. You don't know what I've got for you—it's beautiful.'

R4: You cut your hair?

R3: Jim spoke slowly.

R2: I cut it and sold it,

R1: Della answered.

R2: Don't you like me now? I'm still me, aren't I?

R4: You say that your hair is gone?

R2: Don't look for it, it's gone. Be good to me, because it's Christmas. Shall we have dinner now, Jim?

R3: Jim seemed to wake up. He smiled. He took Della in arms.

R5: Let's leave them together for a while. They are happy, rich or poor. Do you know about the Magi? The Magi were wise men who brought Christmas gifts to the baby Jesus. But they could not give gifts like Jim's and Della's. Perhaps you don't understand me now. But you will understand soon.

R3: Jim took a small box out of his pocket.

R4: I love your short hair, Della. I'm sorry I seemed strange. But if you open the box, you will understand.

R1: Della opened the box. First, she smiled, then suddenly she began to cry. In the box were

R2: two beautiful combs.

R1: Combs like those were made

R2: to hold up long hair.

R1: Della could see that the combs came from an expensive store. She never thought she would ever have anything as beautiful!

R2: Oh, Jim, they are lovely! And my hair grows fast, you know. But wait! You must see your gift.

R1: Della gave Jim the chain. The chain was bright, like her eyes.

R2: Isn't it a good one, Jim? I looked for it everywhere. You'll have to look at the time

one hundred times daily, now. Give me your watch. I want to see them together.

R3: Jim lay back on the couch. He put his hands under his head, and smiled.

R4: Della, let's put the gifts away. They are too good for us right now. I sold the watch to buy your combs. Come on, let's have dinner.

R5: The Magi, as we said, were wise men—very wise men. They brought gifts to the baby Jesus. The Magi were wise, so their gifts were wise gifts.

R1 & R3: Perhaps Jim and Della do not seem wise. They lost the two great treasures of their house.

R5: But I want to tell you that they were wise.

R1, R3, & R5: People like Jim and Della are always wiser than others. Everywhere they are wiser. They are the Magi.

(951 words)

From Draper, C. G. (2006). *All American Stories*. White Plains, NY: Pearson Education, Inc.